

◎今週の御言葉 「クリスマスの喜び ～卑しいはしために目を留めてくださる神様」(サムエル記第一 2 章 1～10 節、ルカの福音書 1 章 39～56 節) 「主は、弱い者をちりから起こし、貧しい人を、あくたから引き上げ、高貴な者とともに、すわらせ、彼らに栄光の位を継がせます。」(8)

「主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。」(48)

◎全世界で祝われているクリスマスの意義は何なのでしょう。その喜びは誰に与えられるのでしょうか？

◎サムエル記第一 1 章ではサムエルの誕生の次第が記され 2 章ではハンナはそのサムエルを神様に捧げた後、感謝の祈りをささげた賛歌が記されています。エルカナの妻ハンナは不妊の女でした。主が胎を閉ざされたからです。当時、子を産むことは神様の祝福を受けることであり、産めない者は神の怒りに触れた者とされ、あなどられていたのです。ですからハンナは心は痛み、神様の御前で涙して祈りをささげたのです。その祈りに応えられて産まれたのがサムエルです。ハンナが感謝の祈りをささげた賛歌の中で、ハンナは心から「主を誇り(喜び)、主の救いを喜んだ」のです。

◎ルカ 1 章には、ヨセフの許嫁マリヤの賛歌(マグニフィカト)がハンナの賛歌に似て、真心込めて神様を賛美しているのです。マリヤは、①「恵まれた方」でした。それは「主があなたと共におられます」即ち「インマヌエル」の恵みなのです(28、マタイ 1:23)。②「神から恵みを受けた」のでした(31)。神様がひとつの使命を授けるため、先ずマリヤに「怖がることはない」と語りかけてその魂を備えられたのです。

「神にとって不可能なことは一つもありません」(37)。不妊の女と言われたアブラハムの妻サラ、エルカナの妻ハンナ、ザカリヤの妻エリサベツの上に全能の神様の働きによって子どもを授け、御業を現されました。それはマリヤの魂を備え、御業に与らせるためだったのです。マリヤは「わたしは主のはしためです。あなたのおことばどりの身になりますように」と神様の御旨に明け渡したのです。③エリサベツを訪れて信仰の分かち合いをし、お互いに神様の恵みを確認し、「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は何と幸いなことでしょう」。信仰と祈りの交わりがお互いを励まし、力づけるのです。④「わが魂は主を崇め、わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます」とマリヤが賛美しております。「卑しいはしために顧みて下さる神」を崇めたのです。。